

第45回全日本学童軟式野球愛媛県大会競技規則

競技規則	2025年度公認野球規則及び(公)全日本軟式野球連盟野球競技者必携学童野球に関する事項並びに本大会特別規則による。
試合方法	トーナメント6回戦とし、点差によるコールドゲーム(5回以降7点差及び日没、降雨)準決勝まで適用する。 3回戦までは3回以降10点差コールドゲームを適用(特別規定) 同一チームの試合は1日1試合とする。 全ての試合において各チームから運営委員(記録員)を1名を出すこと。 全ての試合は県連認定審判員で行う。
試合時間	全試合、1時間30分を超えて新しいイニングには入らない。 6イニング終了時及び時間制限同点の場合、即タイブレーク(無死1、2塁)を行う。(2回イニングまで)更に同点の場合、抽選とする。 決勝のみタイブレークは3イニングまでとする。尚且つ同点の場合抽選とする。 *6イニング及び試合時間が先に到達した方を採用する。
投手の投球制限	1試合における投手の投球制限70球とする。(4年生以下は60球) ※70球(60球)を超えて次打者に投げてはならない。 ※ピッチクロックの採用
使用球	公認J号ボール(ケンコー)
メンバー表	大会指定打順表は4部作成する。第1試合は試合40分前までに会場本部席に監督、主将が持参する。(氏名、背番号等の記入漏れを確認)第2試合以降は前試合の3回終了時まで持参する。 準決勝、決勝は場内放送が入るので5部とする。
ベンチ入り	大会申込記入の監督、コーチ、責任者、マネージャー、スコアラー、選手とする。
引率責任者	各チームは必ず引率者(成人20歳以上で監督兼任可)をつける事。出発から帰宅まで責任を持てる者とする。服装はスポーツ行事にふさわしい服装とする。
選手	小学1年生～6年生男女で、愛媛県軟式野球連盟登録者とし、大会参加申込書記入25名以内、背番号0～99番。主将10番とする。
監督、コーチ	監督30番、コーチ28番・29番とする。(選手と同一ユニフォーム)
背番号	参加申込提出後の背番号の変更は認めない。
厳守事項	選手は、ユニフォーム右袖にマクドナルド布ワッペンを付けること。 打者、次打者、走者、ベースコーチは両耳付ヘルメットを着用 捕手は、プロテクター、ヘルメット、レガース、スロットガード付マスク、ファウルカップを着用(連盟公認ヘルメット、マスク)※2022年からSGマークを推奨する。
シートノック	5分間、後攻めチームより行う。(雨天、時間等の為、中止あり) シートノック中の補助員は、必ず両耳付ヘルメットを着用

- グラウンド使用事項** 使用後の整備は両チームで必ずしてください。(球場の場合ベンチ内の清掃)
飲食物の後始末は各自持ち帰り処分してください。
- 中止決定** 午前7時30分に中止決定
- 追加登録選手** 本大会に限り、追加登録選手は各チームの初戦までは認める。(次戦からは不可)追加登録選手はメンバー表に記入し試合会場の責任審判、対戦相手のチームに報告すること。
記入漏れ、報告無しの場合、追加選手は本大会への参加は認めない。
- ボールキーパー** 各試合のチームから1名ずつ出すこと。(保護者可)
- 応援について** バックネット裏、ベンチより内野側での応援は禁止
応援はベンチより外野側でお願いします。(鳴り物禁止)メガホンは可
- 試合前の練習** グラウンド内、外野でのトスバッティング、フリーバッティングは禁止
ベンチ前でのサイドノックは認める。
ユニフォーム着用(監督、コーチ)以外の大人はグラウンド内に入らないこと。
- 投球数について** 投手の投球数チェックは連盟関係者(保護者、子供不可)が数えて1イニング終了毎に本部席から提示する。
チームスコアラーは本部席からの提示を確認し、齟齬(そご)があれば本部と協議し、訂正する事(余ほどの事がない限り本部優先とします。)
- ルール改正** 本年度からバットの打撃部分にウレタン、スポンジ等の複合バット(一般用)は学童試合にて使用禁止(学童用の複合バットは使用できます。)

試合中の禁止事項

- ① マスコットバットをネクスト・バッタースボックスに持ち込むのは差支えがないが状況に注意し、支障にならないようにする。
- ② 球場内での素振り用パイプリングの使用を禁止する。
- ③ 投手が手首にリストバンド(サポーター等)の使用は禁止
* 手首の負傷で包帯等を巻く必要がある場合は球審の承認が必要
- ④ 足を上げてのスライディングは危険防止の為禁止する。
* 現実にこれが妨害になったと審判員が判断した場合、守備妨害でアウトにする。
- ⑤ プレイヤーが塁上に腰を下ろすことを禁止する。
- ⑥ 守備側からタイムで試合が一時停止になった時、その間の投手は捕手と投球練習をしてはならない。(キャッチボールは可)
- ⑦ 審判員やプレイヤーに手をかけることは厳禁(退場及び試合没収)
- ⑧ 相手チームや審判員、自チームに対する聞き苦しい野次等は厳禁する。
- ⑨ 本塁でのタッチプレーの際、捕手はベースの一角を空けておくこと。走者はベースに向かってスライディングすること。
捕手がベースの一角を空けているにもかかわらず、体当たりした場合、守備妨害とする。
クロスプレーや送球がそれた場合は審判員の判断にゆだねる。
- ⑩ 抗議権を有する者は監督か当該プレイヤー
- ⑪ 試合中、投手の投球練習時、正捕手が遅れる場合、予備捕手がいけない時はベンチの選手又は野手が投球を受けること。(監督、コーチは受けてはならない。)
- ⑫ 試合前、ブルペンでの捕手(監督、コーチ)は可
- ⑬ ベンチ内での携帯電話等の通信系は使用禁止
- ⑭ 応援の鳴り物は禁止(ただし、メガホンは使用可)
- ⑮ 試合中、ベンチ前でのキャッチボール、素振りは禁止

協議運営上の注意事項及びスピード化に関する事項

《投手の準備事項》

- ① 初回又は交代時 7球
- ② 次回からは 3球
- ③ 投手に限りマウンドの上り下がりの場合、内野地域は歩いても良い。
※野手は攻守交代は駆け足

《投手と捕手について》

- ① サインを見る時は必ず投手板について見ること。
- ② 捕手はすみやかに投手に返球すること。
- ③ 投手はすみやかに投手板を踏んで投球位置につくこと。
- ④ あまりにもインターバルが長かったり無用な牽制球が度を過ぎると注意を与える。
- ⑤ 投手のブロックサインは禁止 ※ランナーがいる場合はボークとなる。
- ⑥ 投手板を外さず一塁・三塁の擬投はボークとなる。

《打者について》

- ① すみやかに打者席に入ること。
- ② 次打者はネクスト・バッタースボックスで待機すること。
- ③ みだりにバッタースボックスから出ないこと。

《内野間の転送球について》

- ① 一回りとし最後の野手は守備位置で捕球し、速やかに投手に返球すること。
- ② 試合の状況(天候、試合経過)により、転送球を止めさせることがある。

《タイムについて》

- ① 監督、主将はタイムを要求しないでみだりにベンチから出てはいけない。
- ② タイムの制限
 - * スパイクの紐を意図的に結び直すタイムは認めない。
 - * 1分間を限度とする。
 - * プレイヤーが要求した時ではなく審判員が認めた時である。
 - * 打者がタイムを要求する時は投手が投球の構えに入るまでに要求すること。
 - * 打者は投手が投球姿勢に入れば攻撃姿勢を止めたり打者席から出てはいけない。
- ③ 選手(監督、コーチ)がタイムを要求して投手の所へ行く制限
 - * 捕手を含む内野手が1試合で投手の所へ行ける回数は3回以内
 - * 延長戦になった場合、1イニングに1回行くことができる。
 - * 選手(監督、コーチ)のマウンドの行き帰りは駆け足のこと。

《代打、代走の通告について》

代打、代走の通告は指名とともに選手の背番号を球審に見せその旨を告げる。